2011-2024

2024 10/9 第96号

ふくしま 再生 短信

報告会：2024年10月20日 14時　東大農学部 弥生講堂アネックス

あの日から 3.11 協働の歩み

2024年10月20日14時から、東大農学部弥生講堂アネックスで特定非営利活動法人ふくしま再生の会（理事長・田尾陽一）主催・東京大学農学生命科学科アグリコクーン共催による「福島・飯舘村の状況と再生活動の報告会」が開催される。報告会に先立ち13時より再生の会総会開催。

ふくしま再生の会は、2011年6月6日、16人の有志グループが飯舘村の菅野宗夫さん宅を訪問し誕生。前日には津波で流されたバス・民家・漁船が潟湖を埋める松川浦を目の当たりに。

前年の稲刈りの切り株がそのまま広がる田圃群。2015年KEKの協力を得て村民との協働で全村・全戸の放射線モニタリングを実施。2017年、12年の試験作付を含め6回目の稲刈りを実施。2024年、図図倉庫に再生の会の総合展示がオープン。

乞う！報告会ご来場。

（撮影＆文責・若林一平）

（ポスターデザイン製作 アグリコクーン・渡壁さん）

2024 10/23 第97号

ふくしま 再生短信

2024/10/20 ふくしま再生の会総会・報告会

協働の実りを次へ

ふくしま再生の会の皆様

10月20日の総会・報告会・懇親会は、予想以上に盛り上がりました。

これらの実行を支えた会員・関係者の皆さんの努力の賜物だと思います。

総会はオンラインでなく伝統的な形で、順調に報告・決議が行われ、今年度の事業に邁進することとなりました。報告会は、石川哲さん編集の13年間のわかりやすい映像、溝口さん・宗夫さんの過去・現在・未来の熱のこもった報告、各チームリーダーの熱弁で時間を忘れて盛り上がりました。

中嶋康博　東京大学大学院農学生命科学研究科長・農学部長に挨拶を頂き、福島大学に食農学類を創られた生源寺眞一さんにも挨拶してもらえました。お二人を含め会場の皆さんが、NPO法人ふくしま再生の会の各チームの実行の姿と勢いを目の当たりにしてもらったことが最大の成果でした。懇親会で多くの方々が、そのように話していました。受付から会場整理、ポスター展示などの多くの作業が順調に運んだことに、改めて厚く御礼申し上げます。

2024年10月23日　田尾陽一

2024年10月20日午後1時から、東大農学部弥生講堂アネックスで認定NPO法人ふくしま再生の会（田尾陽一理事長）の第13回定期総会が行われ、第13期活動総括・第14期活動方針ほかを採択。午後2時「福島・飯舘村の状況と再生活動の報告会」開会。田尾さんの挨拶（写真1）に続いて東京大学大学院農学生命科学研究科・中嶋康博科長から「ビールのホップに学生自らの取組み、村との連携の成果」との挨拶（写真2）。◆石川哲カメラマンの撮影・構成『「ふくしま再生の会」飯舘村村民と協働13年間の記録』を上映（写真3）。◆基調講演は東大大学院・溝口勝教授『13年の活動を踏まえ、今見えてきたこと』。再生の会との出会い、埋設汚染土の実証研究、復興からレジリエンス（回復力）へ復興農学の展開を熱く論じ、次世代の若者への支援を訴え「老いては子に従え」と結ぶ（写真4）。◆菅野宗夫さんから「飯舘村の現状とこれからの課題」の報告用ブドウ栽培、野草班、モニタリングチーム、サークルまでい、アートと地域・宿泊施設、各チームリーダー（写真は下段）のみなさんから再生活動現場報告◆佐須米販売（写真6）、環世界探索紀行（写真7）紹介、各QRコード掲載◆全てのプレゼ準備と当日映写操作は渡壁典弘さん◆午後6時から「不死鳥の如く」「復興」に加えてこの日初登場「飯舘ワイン」、飯舘の銘酒を囲む大懇親会（写真8、9、10）。見事なシメ。

（文責&撮影・若林一平）

1

2

3

「ふくしま再生の会」飯舘村村民と協働13年間の記録

4
講演動画

5
不死鳥の如く

8

9

10

会場全景　両サイドに花のポスター・健康いちばん・ほかのパネル

溝口さんプレゼン資料

6

7

アート 矢野伊津子

までい 齋藤富子

モニタリング 北原高次

野草 森本晶子

里山とワイン 小原壮二

健康 中町美佐子

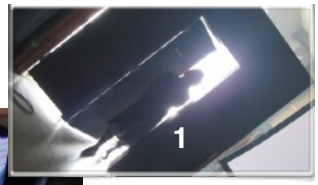
2024 12/03 第98号

ふくしま 再生 短信

2024/11/16 ＜環世界探索紀行＞体験（第1日）

食は宇宙劇場（シアター）へ

2024年11月16・17日の両日、記者は株式会社MARBLiNG（飯舘村深谷二本木前5－1図図倉庫）主催＜環世界探索紀行－いいたてフィールドミュージアムツアー＞に参加。「4食付」という食の魅力に動機づけされた体験記を二号にわたり報告する。



第1日目正午、ズット倉庫でツアーのドアを開いたのは主催者・矢野淳・（株）MARBLiNG代表（写真1）。1幕はふくしま再生の会の展示・環世界への誘い。

続く2幕は『田舎レストランLa Kasse』に移動。、迎えてくれたのは料理人・佐藤雄紀（写真2）。テーブルには前菜とバケットの入った「季節の味覚の採集箱」が並ぶ（写真3）。まるで宝石箱、蓋の上にはメッセージカードのメニューが載る。ジャガイモは育種家・元一さんのイータテベイク。かぼちゃはとみ子さんのいいたて雪っ娘かぼちゃ、目の前に現物。牛肉は豊さんの経産牛、松川浦の魚介も。頂いた料理の数々は雄紀さんのコンセプト「食べたことのない味」そのもの。かぼちゃの隣に小宇宙、飯舘産の高級石材・花崗岩が紅葉に映える。

ここで舞台は転換して「牛の放牧場・肉のゆーとぴあ」へ。山田豊・牧場主が夕食ステーキの希望部位をひとりひとりにカット（写真4）。これぞ至上の贅沢なり。

夕暮れ、東北大惑星圏飯舘観測所へ（写真5）。木星のオーロラと太陽フレアの観測について、三澤浩昭・東北大学准教授がドームのスライドで解説（写真6）。通常のツアーでは訪問できない「秘密基地」にあそぶ。

陽もとっぷりと落ちて、ステーキの待つ夕食会場「民家園 宴」へ。バーには、「不死鳥の如く」ほかの銘酒が並ぶ（写真7）。雄紀シェフがお昼に続く大活躍、多謝。

宿泊体験館「きこり」の温もりの中で爆睡へ。

（写真・文責／若林一平）

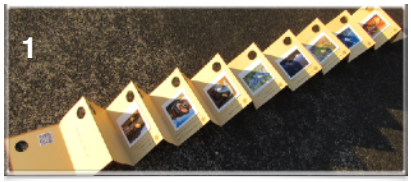
体験紀行２

２０２５　１／２１　第９９号

ふくしま 再生 短信

2024/11/17 ＜環世界探索紀行＞体験（第２日）

環世界探索そして大団円（ツアー ドラマ）



今回のツアー、最初に配布されるキットの中に「探索採集ノート」があり各ポイントの訪問カードを貼り付け、感想をメモ、キーパーソンのサインを残したり、世界でひとつの探索紀行の誕生だ（写真１）。キットにはアイフォーンも貸し出されポイントの当事者たちのナレーションを聴ける。

２日目の１７日、６時目覚め「きこり」の大浴場を独り占めの贅沢のあと、村民の森「あいの沢」へ直行、生き物たち、ヤマユリ、カエデ、などの案内をいただきながら絶景を堪能（写真２）。温かいエゴマのお汁の朝食の後、山の神オオカミを祀る山津見神社参拝（写真３）。続いて「研究者たちの観測拠点」風と土の家・測定小屋に移動（写真４）。あいの沢の採集資料の放射能測定結果を説明する、ツアー主催者・矢野淳（写真５）。炉辺談話ならぬ囲炉裏談話は＜学び舎 iroriＶに登場した観測拠点の村民・田尾陽一（認定NPO法人ふくしま再生の会理事長）（写真６）。「この指とまれ」で１３年間やってきました。

お見送りは「どぶちえ」こと「気まぐれ茶屋ちえこ」の佐々木千榮子その人（写真７）。どぶろくを突破口に新たな地平の開拓者。飯舘の**凍みもち**に深い記憶のドラマが蘇る。（文責＆撮影・若林一平）

100号御礼

2025 3/11 第100号

ふくしま 再生 短信

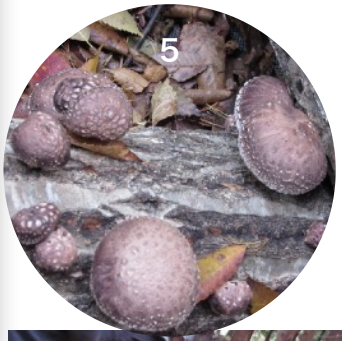
＜里山再生＞飯舘村佐須現地訪問 24/11/17

里山にひらく夢

2024年11月17日午後、飯舘村佐須に里山再生活動（小原壮二チームリーダー）の現場と周辺地域を訪ねた。ふくしま再生の会は、里山の放射線量や樹木・土壌の放射能濃度を測定し、伐採・植樹により里山林の新陳代謝を促進し、新しい果樹農業を始め、里山の自然とその恵みを生活の身近に取り戻すことを目指して、里山再生活動に取り組んできた。

この日、記者は里山林の周辺に展開するワイン用のぶどう園へ（写真1）、ちょうど堆肥の施肥作業の真っ最中。目指すは来秋の収穫。菅野宗夫農園で熟成した堆肥。東大大学院農学生命科学研究科・溝口勝教授が率いるグループ学習チーム（留学生3人・国内3人）の学生たちがきびきびと作業に取り組む（写真2）。葡萄棚を支える骨組みの補強も大切だ。モニタリングチームリーダー・北原高次も応援に駆けつけ（写真3）。

里山林で始まった椎茸栽培、菌を植え付けたホダ木がズラリ（写真4）。おお何と、立派な椎茸が誕生（写真5）。小原は収穫の可否を工藤義行師匠に電話打診、返事は問題なし。贅沢なご褒美に一同喝采。別の現場ではシメジ栽培の準備中、グループ学習チームが放射能測定の土壌採取に励む（写真6）。夢ひらく里山、その一端を堪能した午後でした。



里山再生活動は地球環境基金とイオン環境財団の助成を受けて取り組まれています。

（文責＆撮影・若林一平）

いいたてワインへの道 2017～2024

2017年、小原壮二・菅野宗夫・竹迫紘当時明治大学農学部教授）間で、ワイン用ブドウ栽培に挑戦する話が持ち上がった。以降、京都・長野・帯広池田町を視察し、山形県菊池園芸・二本松市ふくしま農家の夢ワインからも支援を受けて、2019年4月にブドウ栽培が始まる。そして2024年10月，東大農学部で開催された報告会で試験醸造の「いいたてワイン」が披露された（写真上）。